講演会

「一弦琴ーひとつであり、すべてでありー」
6 月 18 日　峯岸一水（清虚洞一絃琴・宗家四代）

「人気のメカニズム～現代ロシアの人気作家たち」
10 月 23 日　オリガ・スラブニコワ（作家）

「社会と文化が響き合う場としての劇場
ードイツの演劇と教育をめぐる文化政策の現在ー」
2 月 1 日　ヴォルフガング・シュナイダー
（ヒルデスハイム大学）

前号で柳原孝敦氏のお名前に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

編集後記

「ところ変われば……」

国内外を問わず、どこへ旅しても必ず抱く思いはこれであろう。見慣れていたものが意外な姿で目の前に現われ、当たり前だと思っていたことが、思いもかけない様式で執り行われる。そんな経験のまったくない人は、おそらくいないのではないか。

世界のさまざまな地域の文化の研究者を擁する本研究所だからこそ、そのような多様性を捉えられるかもしれない、今回のテーマに「〈かたち〉の変容」を選んだのはそんな思いからである。ちょうど第一号の「ロシア」で始まった『総合文化研究』の特集テーマの世界の旅も、昨年の第十二号の「日本」を以て、ひととおりの地球一周を終えた。この第十三号は各地域から世界の拡がりに視点を移したかたちだ。その思い叶って、さまざまな〈かたち〉論を寄せていただいた。執筆者各位に心より感謝したい。

また今回からは「新刊紹介」という、その年に出版された所員による著書および訳書を紹介する新しいコーナーを設けることができた。案内役は本学の教員や卒業生、そして現役の大学院生である。ご協力いただいた方々全員にこの場を借りてお礼を申し上げる。

文化は動き、混ざり、変わる。そして、作られる……。今やブラジルの代表的な文化になっているカーニバルも元をたどれば海を渡ってきたもの。それがさらに別の海を渡り、日本の浅草の名物になっている。表紙の写真はその浅草サンバカーニバルからのものである。その存在はすでにブラジルでも知られているが、それはまだブラジルを模倣している段階にあると言っていいだろう。今後どのように独自の〈かたち〉へ変容を遂げるのかが楽しみだ。写真は川端岳郎氏が撮影したものをいただき、デザインを本学大学院生の花田勝暁氏にご協力いただいた。ご好意に感謝したい。

編集にあたっては大塚ちはや、大澤俊朗、田中恵、鳥越慎太郎の四名が実質的にすべてを担い、とても丁寧に心のこもった作業をしてくださった。この方々のご協力とご努力がなければこの研究誌はかたちにならなかっただろう。心から感謝する。

（武田千香）

Trans-Cultural Studies No.13
総合文化研究 第 13 号

2010 年 3 月 25 日発行

責任編集　武田千香

編集スタッフ　大澤俊朗　大塚ちはや
田中　恵　鳥越慎太郎

発行　東京外国語大学 総合文化研究所
〒 183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1
電話　042-330-5409
Fax　042-330-5410
Web　http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/
e-mail　ics@tufs.ac.jp

印刷（株）平河工業社
東京都板橋区中丸町 30-3